

株主の皆様へ

第105期

中間報告書

2024年4月1日～2024年9月30日



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第105期中間期の概況をご報告申し上げます。

国内建設市場は公共、民間ともに堅調に推移し、今後も公共建設投資は防災・減災対策や加速化するインフラの老朽化への対応、国家防衛戦略などにより引き続き底堅く推移する見込みです。民間設備投資も企業の設備投資意欲は底堅く、堅調に推移する見込みです。

このような状況のなか、当中間連結会計期間における当社グループの受注状況は、特に国内建築事業が好調に推移していることから、通期受注高は期初予想を上回る見通しです。これに伴い、当中間連結会計期間における繰越高は過去10年間で最も高い水準となりました。また、受注時における利益も適正水準を確保できていることから今後の業績に大きく寄与する見通しです。

また、カーボンニュートラルの実現に向けて注目されている洋上風力プロジェクトは、2024年度中に日本国内の9つの海域で事業者が決定し、2027年以降に本格的な着工が予定されています。

当社グループでは、洋上風力建設事業を成長ドライバーと位置付け、洋上風力プロジェクトが具体化されていくなか、経営資源である「ヒト・モノ・カネ」を重点的に投下し、着工が本格化する2027年に照準を合わせ、取り組みを加速させています。

当中間連結会計期間における取り組み状況は、2026年上期の完成を予定するケーブル敷設船の建造に着手し、また国内初の海底ケーブル埋設機を調達することを決定したほか、同事業を推進する低コスト施工の技術開発や多様な人材の育成を推進しました。

当社グループは、洋上風力建設事業のリーディングカンパニーを目指すとともに、2050年のカーボンニュートラルの実現、海洋そのものが持つ可能性を最大限に広げ、未来につなげていくため貢献してまいります。

高い競争力を有する国内土木事業におきましては、引き続き堅調な市場環境のなか、事業量の確保および高い収益性の実現に向けて、官庁海洋工事における大型プロジェクトの確実な受注、また防衛関連、民間および官庁陸上工事の受注拡大に努めています。

国内建築事業におきましては、市場環境が急激に変化するなかでも収益を拡大できるよう収益構造の改革に向けて、ストック市場への取り組み強化策であるReReC® (Renewal, Renovation, Conversion) 営業の展開継続や非請負分野への取り組みのほか、受注時利益の確保のみならず設計時・施工時の利益率向上を目指した取り組みの強化、人材の確保・育成に努めています。

海外建設事業におきましては、最重要拠点であるフィリピンに経営資源を集中し、ODA案件の獲得およびフィリピン現地法人CCT CONSTRUCTORS CORPORATIONによる民間工事の拡大のほか、現地人材の育成に取り組み、収益基盤の強化に努めています。

当中間連結会計期間の売上高は、前年同期比（以下、同期比較）17.1%減の736億3百万円となり、営業利益は33.8%減の27億72百万円、経常利益は33.7%減の24億31百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は、15.3%減の18億46百万円となりました。

また、通期の連結業績予想につきましては、最近の業績等の動向を踏まえ、2024年5月10日付で公表した予想値を修正いたしました。

売上高は、国内土木事業や海外建設事業において出来高が期初予想を下回る見通しであるため、個別業績において前回発表予想を80億円下回ると予想しています。

連結業績に関しましても、個別業績予想の修正に伴い売上高が前回発表予想を80億円下回ると予想しています。

なお、各利益に関しましては、利益率向上により売上高の減少に伴う影響を補える見込みであり、前回発表予想から変更はありません。

詳細につきましては、2024年11月11日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

当社グループは、技術力と経営資源を活かし、役職員一人ひとりが最大限の能力を発揮することで、課題解決に向き合い、さらなる高みを目指し邁進してまいります。

今後の当社グループにどうぞご期待ください。

2024年12月



代表取締役 会長執行役員CEO 吉田真也 代表取締役 社長執行役員COO 中村龍由

自航式ケーブル敷設船の起工式 (Keel Laying) を挙行

当社は、2024年9月24日、Vard Group AS*1 (COO : Erik Sandnes、ノルウェー) と建造契約を結んでいる自航式ケーブル敷設船 (以下「本船」) の起工式 (Keel Laying*2) を、両社関係者らが見守るなか、ルーマニアの同社造船所で執り行いました。

これにより、本船は本格的な建造ステップへ進むこととなり、2026年度上期の完成に向けて計画が予定どおり進捗していることをお知らせいたします。

本船は自航式ケーブル敷設船として国内で最大級の能力を有しており、2020年代後半から本格化する洋上風力建設事業において、重要な役割を果たすことができます。

洋上風力発電は、脱炭素社会の実現に不可欠とされる再生可能エネルギーのなかでも、大きな切り札として強い期待が寄せられており、当社は普及・拡大に貢献すべく、洋上風力建設事業を今後の主要事業として注力しています。

当社は、洋上風力建設事業に加え、直流送電事業や海洋エネルギーをはじめとする海洋そのものが持つ可能性を最大限に広げ、未来につなげていくため、挑戦・貢献してまいります。

*1 : 世界最大級の造船グループであるFincantieriグループの一員であり、ノルウェー、ルーマニア、ブラジル、ベトナムに造船所を有し、ケーブル敷設船をはじめとしたオフショア船の設計・建造に多数の実績を誇っています。

*2 : 船体の組み立てを始めるステップに当たり、進水式、試運転と並ぶ「船の生涯」で特別なイベントの一つとされます。

【プレスリリース】

<https://www.toyo-const.co.jp/topics-21030>



ケーブル敷設船の完成予想図



右から 当社中村社長COO、
VARDグループのCathrine Marti CEO、
同社Alberto Maestrini会長

当社初のテレビCM 『どこまで愛せるか』 篇を放映開始

当社は、2024年9月7日から初めてのテレビCM『どこまで愛せるか』 篇を放映開始いたしました。

私たちが大切にしているもの、それは“人”です。最前線の現場で働く人から内側でそれをサポートする人まで。そのそれぞれの局面で仕事という枠を超え、強い愛情と意志を持って挑戦する職員のありのままの姿を描きました。

テレビCMのコンセプトづくり、撮影スポット選定、ロケハン、キャスティングまで13名の若手プロジェクトチームで行いました。テレビCMには同チームメンバーを含めた当社職員が出演しています。

撮影スポットとなったのは、本社や研究所のほか、当社が手掛けている海洋土木と建築の現場です。海洋土木から事業を始めた当社が大切にしている「アマモ場再生活動」の様子も紹介しています。また、当社が保有する強い潮流や強風時でも定点保持を行える500t吊起重機船「AUGUST EXPLORER」も登場しています。

当社は、単に建物やインフラを造っているのではなく、その先にある人々の暮らしや、お客様の気持ち、そして持続可能な社会を思い描きながら、日々の業務に取り組んでまいります。

【プレスリリース】

<https://www.toyo-const.co.jp/topics/generalnews-20613>



テレビCM イメージ画像



YouTube CMギャラリー
QRコード

2025年3月期中間期の連結業績概況

経営成績

当社グループの経営成績の状況は以下のとおりです。

売上高 **73,603**百万円
(前年同期比 17.1%減)



営業利益 **2,772**百万円
(前年同期比 33.8%減)



経常利益 **2,431**百万円
(前年同期比 33.7%減)

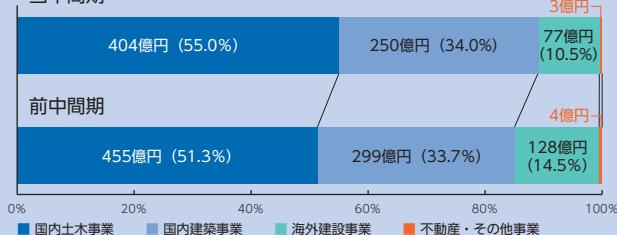


**親会社株主に帰属する
中間(当期)純利益** **1,846**百万円
(前年同期比 15.3%減)



セグメント別売上高

当中間期



1株当たり当期純利益、年間配当金推移



★ 会社概要 (2024年9月30日現在)

社名 **東洋建設株式会社**
 英文名 **TOYO CONSTRUCTION CO., LTD.**
 創立 1929年7月3日
 資本金 14,049,367,174円
 営業種目 土木建築工事の請負、建設コンサルタント、土地造成、地域・都市・海洋・資源エネルギー開発及び環境整備、公共施設の企画、管理運営、エネルギー供給に関する事業、不動産業、その他関連事業
 従業員数 1,730名 (連結)

表紙写真：操業中の500t吊起重機船「AUGUST EXPLORER」

夢から感動へーハートテクノロジー



UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

